

love music

PHILOMUSICIA
5th

ごあいさつ

本日ここに「京都フィロムジカ管弦楽団」定期演奏会を開催するにあたり、ご多用にも拘わらず、多数の方々のご来場をいただきまして誠にありがとうございます。

この定期演奏会も、回を重ねること第5回目となりました。

今回は、指揮者に池田俊氏をお迎えし、先生方のご指導のもと、ますます努力と研鑽を積み重ね、本日ここに魅力あふれる曲の数々を披露してくれるものと期待致しております。皆様にはその努力の結実を演奏の中にお聴きいただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、京都フィロムジカ管弦楽団の為に、物心両面にわたるご支援を賜りました皆様方をはじめ、ご指導下さいました先生方に厚く御礼申し上げますと共に、定期演奏会のますますの発展を祈りまして、ご挨拶とさせていただきます。

京都フィロムジカ管弦楽団顧問 和田 之宏

本日はお忙しい中、京都フィロムジカ管弦楽団第5回定期演奏会に御来場いただき、誠にありがとうございます。

この春、フィロムジカが誕生して4年目を迎えることができました。これもフィロムジカの演奏会を聴きに來て下さる皆様のおかげであると、団員一同こころより感謝しております。

最近の活動では、昨冬、初めて京都コンサートホールにて演奏会を行い、満席立ち見の盛況となりました。さらに、この6月にはアメリカより來日するペニンシュラユースオーケストラとの交流演奏会を主催し、また来年には20世紀最後のフィロムジカの演奏会として、マーラーの交響曲第5番という大曲に挑むことがすでに決まっています。

このように活動も多彩になってきたフィロムジカですが、本日の演奏会ではシューマンの交響曲2番などの難曲を選び、池田先生の御指導のもと練習に励んで参りました。皆様に何かをお届けすることができれば、これにまさる喜びはございません。これからフィロムジカはいろんな音楽と出会って行くことでしょう。その新たな出会いのためにも、本日、皆様とともに最高の時間を過ごせるよう、精進してまいりました。どうか最後までお楽しみください。

最後になりましたが、素晴らしい御指導御鞭撻くださった池田俊先生をはじめとする各先生方に心より感謝申し上げます。

京都フィロムジカ管弦楽団団長 小林 香

京都フィロムジカ管弦楽団
第5回定期演奏会

- PROGRAMM -

ロッシーニ：歌劇「セビリアの理髪師」序曲
Gioacchino ROSSINI (1792-1868) : Overture zur Oper "Der Barbier von Sevilla"

シベリウス：カレリア組曲 作品 1 1

Jean SIBELIUS (1865-1957) : Karelia Orchestersuite Op.11

I. Intermezzo (間奏曲) II. Ballade (バラード) III. Alla marcia (行進曲風に)

- 休憩 -

シューマン：交響曲第2番 ハ長調 作品 6 1

Robert SCHUMANN (1810-1856) : Symphonie Nr.2 C-dur Op.61

I. Sostenuto assai - Allegro, ma non troppo

II. Scherzo. Allegro vivace - Trio I - Trio II

III. Adagio espressivo

IV. Allegro molto vivace

指揮：池田 俊

1999年6月6日(日)午後2時開演

京都市呉竹文化センター

楽譜提供：トヨタミュージックライブラリー

後援：京都府

※携帯電話、ポケットベル、アラーム付き腕時計などの電源はお切り下さい。

また、客席でのご飲食・喫煙はご遠慮下さい。

※写真撮影、録音、録画はお断り申し上げます。

都ホテル・新都ホテル専属

岐陽館

小林祐史写場

(駐車場有)

〒604 京都市中京区寺町通丸太町下ル
電話 (075) 231-1471
FAX (075) 231-1471

曲目解説

ロッシーニ／「セビリアの理髪師」序曲

今日のコンサートはこの曲で始まる。冒頭にホ長調の明るい和音がホール全体に響くと思う。「セビリアの理髪師」はイタリア人作曲家ジョアッキーノ・ロッシーニ(1792-1868)によって「フィガロの結婚」の前編として書かれた喜歌劇である。セベリアとはスペインのアンダルシア地方の町の名前でオペラはここを舞台としている。曲はゆっくりとした序奏(2分)から始まるがこの部分は、これから何か事件がおりそうなる雰囲気を感じさせる。続く主部(6分)は軽快なテンポでときには皮肉な表情のある曲想だ。いろいろな楽器がとてもユニークな旋律をソロで吹き分けるのはひとつの聴きどころだろう。とにかく明るい曲なので今日は楽しく演奏したいと思っている。(Hrn.長岡武志)

シベリウス／カレリア組曲

カレリア地方はフィンランド人のシベリウスにとって意味深い土地である。シベリウスの創作の背骨ともいえるべきフィンランドの民族叙事詩集「カレワラ」が採集された地であり、いわばフィン人の心の故郷と言えるからである。しかも国境地帯にあるカレリアは常に大国ロシアの脅威にさらされ(現在もロシア領)それだけに一層フィン人の郷愁の心を打つ。この曲はカレリアにちなんだ劇のために書いた付随音楽から3曲を選んで組み合わせたものだが、シベリウスは心の故郷であり彼自身の新婚旅行の地でもあるカレリアへの深い愛情を感動的に歌い上げる。

第1曲「間奏曲」は弦の刻みによる音の絨毯の上で4本のホルンがのびやかに歌い始める。夜明けを告げるような穏やかさと広がりを持つこの序奏が過ぎると、素朴な味わいを持ったリズムカルな音楽が続く。

第2曲「バラード」は組曲全体の白眉ともいえるべき珠玉の傑作。木管と弦のみの簡潔な編成ながら、個々の楽器を効果的に重ね合わせて奥深い音楽を展開する。感情が溢れ出るような暗く物悲しい響きは、聞く人それぞれにその人だけの「物語」を思い起こさせるに違いない。

第3曲「行進曲風」は第1曲と同様リズムカルでにぎやかな音楽。まばゆい光を思わせるような金管の響きも印象的だが、音が激しく跳躍する木管の旋律は力強さを内に秘めていていかにもシベリウスらしい。

この組曲は民族叙事詩集「カレワラ」に直接ちなんだ作品ではないが、明らかにカレワラの世界観が投影されている。豪快な登場人物たちを思わせる素朴な力強さ、人間と神との交信のようなフレーズとフレーズの対話。単調な繰り返しの多さもシベリウスの特徴だが、その繰り返される音楽の中にじっと身をゆだねていると、カレワラに描かれた悠久不変の自然が見えてくる。(Tp. 遠藤啓輔)

シューマン／交響曲第2番

シューマンは現在の音楽界において不当な扱いを受けている作曲家ではなからうか。それなりに知名度が高い(もっとも伝説的なピアニストのクララ・シューマンの夫としての知名度であろうが)ことと比べてみると、作品が演奏される機会は意外なほどに少ない。この交響曲第2番はそうしたシューマンの作品の中でも最も演奏されない曲であ

る。半世紀の長きにわたって関西楽壇をリードしてきた大阪フィルがこの曲を定期演奏会で初めて演奏したのが、奇しくもちょうど一年前の98年6月6日であったというデータは、この曲の演奏機会の少なさを見事なまでに物語っている。

シューマンが演奏されない理由は次の二つにあらう。一つは、彼はオーケストラの使い方が下手だという誤った評価。そしてもう一つは精神疾患を患っていた彼の音楽は健康な人間には理解しがたいという非建設的な先入観である。しかし、この曲を素直に聴いていただければ、そのどちらもが不当な評価であると思われることだろう。

シューマンのオーケストレイションに対する批判は音色の野暮ったさにある。管楽器を一様に重ねるシューマン独特の分厚い響きは、ソロ楽器を効果的に利用したきらびやかな音楽が台頭するにつれて工夫のない稚拙な響きとみなされるようになった。しかしながら、この野暮ったい響きこそシューマンならではの個性であり魅力である。派手さがないだけに安定した落ち着きがあり、さらに、リズム・歌心・構成という音楽の魅力の根幹をなす要素をかえて引き立たせる。1楽章や4楽章におけるスフォルツァンドの頻出はリズムの輪郭を際立たせ音楽に生命力を与える。そうしたきびきびした楽章には含まれた3楽章や2楽章のトリオに見られる感情に満ちた歌心は、草原の中の一輪の花のような美しさとはかなさをもって聴く者の心をつかむ。一方で1楽章冒頭の金管の静かな合奏は、むしろ賛美歌を歌うような清らかさに満ちている。そしてこの金管の音形は全楽章を通じて少しずつ姿を変えながら繰り返し登場し、曲全体を綿密に関連づける役割をも果たしている。

この第2交響曲を作曲していた頃、シューマンの精神疾患はもっとも深刻な時期にあり、それがこの曲に対するマイナスの先入観の原因になっている。しかし、だからといって決して病的な音楽ではない。いやむしろ、病をおして作られた曲だからこそ、あらゆる困難をものねのける人間の意志の強さと、救いの光を得た時の喜びとが深い感動をともなって伝わってくる。暗闇の中で手探りするように救いを求め、そして一条の光を得て安堵するかのような第3楽章、そして4楽章の最後には、感謝を告げる静かな歌やがて堂々たる讃歌になって結ぶのである。(Tp.遠藤啓輔)



For School, Business or Pleasure
ア・ブ・ク・ド・イングリッシュ スクール
小学生から大人迄の英語専門教室
〒607 地下鉄 東西線 御陵駅 下車
徒歩 3分 協和荘301~302
TEL + FAX 075-593-4426

「私の思うアマチュアオーケストラ」

オーケストラという生き物は大変難しく、楽しいものである。これが一般のアマチュアオーケストラとなればある意味においては、尚一層のことでしょう。フィロムジカの団員諸君は大学生も多数おられ、もちろん企業のサラリーマン・医者・その他さまざまな職業を持った中で、音楽を一つの楽しみとして、精一杯コンサートに向けてガンバッテいます。

いわゆる毎日の生活パターンが異なった人達の集まりなのです。練習日に会社の仕事で参加出来ない場合も、多々あるでしょう。これも一つにはアマチュアオーケストラの難しい面でもあり、プロオーケストラとはまったく異なった面です。プロのオーケストラであれば一回あるいは二回の練習で、次の日は本番という日程になるでしょう。

しかしアマチュアの場合は、そういう日程は組めませんし、またそうしてはいけないのです。様々な諸問題と取り組みながら、時間が経過していく中で、やっとの思いで本番を迎えるのです。

私は、その長い道のりが彼らにとって大変重要なプロセスであり音楽を奏でる喜び・楽しさ・仲間との交流・失敗した時の色々な反省が一つになって、学ぶことが出来る期間だと思っております。（音色の作り方、演奏法、そして一番大事な音楽的な流れ等に、一体感をもたらす為にも）

フィロムジカのコンサートマスター、ミストレスは私が今までアマチュアのオーケストラや吹奏楽団で指揮してきた中で、私の思いをよく理解していただける人達だと感じています。指揮者とコンサートマスターのコミュニケーションがしっかりと出来ていなければ、（特にアマチュアの場合）練習においても、本番においても、ギクシャクと大変しんどい思いをする事でしょう。そういった意味においても、今回のフィロムジカさんとは、私の一人よがりかも知れませんが、気持ちよく音楽に向かっていくことが出来たと思っています。

オーケストラはあらゆる室内楽の集大成なのです。すなわち金管・木管・打楽器・弦楽アンサンブルが寄り合って、一つのオーケストラが生まれているわけです。すべてのセクションがお互いに協力しなければ、成立しません。素晴らしいハーモニー等は、そういった中から生まれてくる一つの要素でもあるのです。

精一杯、素晴らしい音楽を提供することが出来ると確信しております。

指揮者 池田 俊

池田 俊 プロフィール

大阪音楽大学付属音楽高等学校から大阪音楽大学へ進み、トランペットを斉藤広義氏に師事。1970年大阪音楽大学卒業、第40回読売新人演奏会に出演。

東京のオーケストラからの誘いもあり東京での音楽活動を一時は志そうとしたが、一転し、地元である関西での活動を決心し、大阪フィルハーモニー交響楽団に入団。

その後、西ドイツのデトモルト国立音楽大学に留学。トランペットをヘルムート・シュナイディント、室内楽をヨスト・ミヒャエルス、ビリー・ワルター各氏に師事。その間ドイツ各地の演奏会に参加し帰国。

帰国後、大阪フィルハーモニー交響楽団に再入団し、首席トランペット奏者として演奏する傍ら同楽団や大学のオーケストラとしばしば共演。NHK洋楽オーディションに合格。

『夕べのリサイタル』に出演。

また、トランペット・リサイタルを各地で開催し、絶大なる信頼を得る。

大阪フィルハーモニー交響楽団首席トランペット奏者として長年活躍した氏は1995年、同楽団を退団。

1997年オーストラリアでのブリスベン国際プラス・フェスティバルに招かれマスター・クラスの授業でソロやオーケストラ・スタディの指導と共にコンクールの審査も務める。

同楽団在団中より指揮の勉強も始め1976年、大阪シュベルマー金管アンサンブルを主宰し、トランペットと指揮を兼ね、その演奏活動が認められ、大阪文化祭奨励賞・本賞等を受賞。また、大阪新音の新星演奏家として選ばれる。

大阪フィルハーモニー交響楽団在団中においても、指揮活動をしていた氏ではあるが退団後本格的に指揮活動の為、関西フィルハーモニー管弦楽団と指揮者デビューコンサートを開催し、豊かな音楽性をもつ才能ある指揮者！と絶賛される。

現在はフリー奏者として、また関西における有能な指揮者として、現在最も注目を集め、アマチュア分野においても貴重な存在となっており、今後ますます活躍が期待されている。

大阪芸術大学非常勤講師（トランペット、オーケストラ・スタディ）





演奏家のための

ミツマの直輸入弦楽器

直輸入でいいものを安く。
修理・調整もお任せください。

弦
特
価

Violin Viola Cello



インターネットで音楽情報を！【クラシック音楽情報センター】<http://www.musicinfo.com/>

(株)ミツマ・ミュージックプロダクツ 京都・三条京阪駅前 Tel. (075)761-1213

「人間的で深い音楽をつくりましょう」

私の手元に一枚のレーザーディスクがある。『バーンスタイン 最後のメッセージ』と題されたこのLDを初めて見た時に私が受けた衝撃は、何回見ても私の中に鮮明に蘇る。私はこのLDで初めてこの曲—シューマン 交響曲第2番—に出会った。

あれは私が大学1回生の時だからもう7年も前になる。中学生の時に始めたチェロを大学オーケストラでも弾いていた。その頃私はオーケストラでの活動に苦悩していた。

私が高校生の時まで所属していた愛知県のオーケストラでは、私は最も若手であり、技術は当然未熟であったから、何とか周囲の足を引っ張るまいと懸命に練習していた。この頃は、音程をはずさないとか、速い箇所を弾けるようにするとかばかり考えていた様に思う。とにかく余裕がなかった。作曲家や曲について考えたことなどまるで無かった。ただ楽器を弾く事は楽しかったし、日一日と弾けるようになっていく事に喜びを感じていた。

ところが大学生となり、このアカデミックな都市に来ると状況は一変することになった。大学オケの先輩や友人からは、音楽について様々な薫陶を受ける事ができ有意義だったが、演奏のレベルは私がそれまでやってきたものから数段下のところにあつた。私はそれまでの末席奏者から主力の一人とみなされるようになった。そのギャップを埋めるために私は、それまで以上に練習するようになった。ただし、その練習とは「正確に演奏する」ためのもので、技術の向上を求めてはいたが、音楽的な部分は考えてもいなかった。しかし、自分がある程度弾けるようになって、オーケストラが劇的に良くなるわけではもちろんなく、私にとって納得がいかない演奏というのがしばしばあつた。そうするとオーケストラの活動が楽しいものとは感じられなくなり、一時は「もうやめようか」と真剣に考えていた。

私がこのLDを見たのはそんな頃だった。

「私には愛するものが二つあります。それは、人間と音楽です。」

インタビューに答えるバーンスタインのこの言葉が私の胸に突き刺さった。音楽はもちろん好きだったが、オーケストラからは心が離れかけていた。そしてそれは自分が思うようには演奏しない周囲の人に対しての醜い感情故であつた。この言葉は、かなりの痛みがあつたが、私を救ってくれたような気がする。技術を偏重していたことを私に気づかせてくれた。そう、求めるべきは「良い音楽」であつて「良い演奏」ではないのだ。技術は「手段」であつて「目的」ではないのだ。このことを強く認識することができ、私のオーケストラに対するアプローチは変わった。音楽をもっと好きになり、その思いを込めるように楽器を弾くようになった。

さらにこの思いを決定的なものにしたのが、第3楽章のリハーサルの前にバーンスタインがオーケストラに言った次の言葉である。

「これから人間的で深い音楽をつくりましょう。」

私はこの言葉に魅せられてしまった。この言葉は全ての曲に対して自分なりの思いを投入する事を許してくれる。技術的に差のあるアマチュアのオーケストラでも、一人一人が抱いている思いが集まればそれはまさに「人間的」であり、それを求めることにより「音楽」がつくられる—私はこのように理解した。

今考えると、この言葉はシューマンのこの曲に向けて発せられたからこそ、ものすごい説得力を持って私の中に残っているのだと思う。モーツァルトのような「神」の音楽では「人間」をこのようには感じなかつただろうし、ベートーヴェンでは「全人類」的で「個人」を強くは感じなかつただろう。ところがシューマンのこの曲には強く「人間」「個人」を見ることができるのである。

ベートーヴェンの偉大な交響曲群の登場以後の交響曲のテーマとして、大雑把に言うに「英雄が一度は死ぬが復活し最後は勝利を迎える。」というのがあると思うが、シューマンのこの曲は、3楽章で死に切れていない様に感じる。死に切れないという事に「人間」を感じずにはいられない。巷間ささやかれるような、「シューマンは管弦楽法が下手だから鳴りきらない」といったことももしかしたら、ねらってやっているのかと勘繰りたくなってしまう。

「私個人」がこの曲に対して抱く、作曲家の意図などとは別の個人的な思いとは「私個人」そのものである。すなわち、私の今までの音楽へのかかわり方を（かなり強引ではあるが）この曲に見るのである。

- ・ 1楽章：楽器を始め楽しく弾いていた頃
- ・ 2楽章：ひたすらに技術の向上を求めている頃
- ・ 3楽章：オーケストラに苦悩していた頃
- ・ 4楽章：この曲に出会った時

この曲を聴くまたは弾くたびに私は今まで書いてきたような事を思い出し、音楽を好きな自分を再認識することができる。私にとって本当に貴重な一曲である。

「好きな曲は何ですか？」ときかれ、「そのとき演奏している曲です。」と答えるのは愚問に対する演奏家の賢答として有名な例である。演奏家は作曲家のランク付けをしてはいけないということなのであろう。今日中に誰か私にこの質問をしてくれないだろうか。「好きな曲はシューマンの交響曲第2番です。」と胸を張って答えることのできる最初で最後の機会かも知れないので。

演奏する我々の様々な思いが聴いている人達まで届き、このイマイチ有名でない名曲を好きになって下さる事を願って止みません。

Vc.小野田 ちから 税

京都フィロムジカ管弦楽団 Philomusica Orchester Kyoto

Konzertmeistern

永徳 丈
田村 うらら

Violinen

荒川 奈央子
井上 あゆみ
井上 理恵
上柁 祐典
永徳 丈
大八木 文人
小幡 拓也
小段 南人
田村 うらら
津田 和子
津田 篤太郎
中島 円
西村 浩輔
濱田 美子
平本 知子
堀口 真仁
宮下 康子
吉野 仁子
吉本 光佐
※磯貝 文彦
※井上 史
※高橋 淑子
※田中 幹也
※田辺 明子
※南 幸友子

Bratschen

植木 廣伸
河上 由香里
中谷 祐子
平石 美緒
村山 義尚
※池田 有佳
※長谷山 智仁
※安井 久美子

Violoncelli

小野田 税
菊地 涼
小松 正明
※石黒 豪
※高津 史子
※萩野 健

Kontrabässe

※池上 綾
※井上 ゆか
※酒井 隆雄
※関 一平
※野間 友世

Flöten

酒匂 美奈子
逸見 正憲
政岡 潤平
松村 朋美
(Piccolo)

Oboen

相宮 香奈子
野岡 千恵子

Englischhorn

※中木 明日香

Klarinetten

武田 勝正
野田 瑠美

Fagotte

高山 泉
廣岡 美紀

Hörner

芦原 俊平
木下 高好
木下 洋輔
永尾 太郎
長岡 武志
藤原 義和

Trompeten

遠藤 啓輔
小林 香
濱田 篤
村上 明日香
渡辺 美智子

Posaunen

石松 康介
川原 靖弘

Baßposaune

※青木 美津江

Tuba

※坪内 大輔

Pauken unt

Schlaginstrumente

※武田 太蔵
※田中 志津恵
※田中 聖子
※平尾 真樹子

※印・・・客演

顧問

和田 之宏

団長

小林 香

事務

伊吹 勇亮
上田 珠子
高田 志保

副指揮

高谷 光信 京都府厚生年金基金合唱団首席指揮者。京都子供の音楽教室非常勤講師。堀川高校音楽科を経て大阪音大卒。同大学オペラ公演の指揮スタッフとして活躍。指揮を伊吹新一・田中良和・蔵野雅彦・V.プラソロフの各氏に師事。1998年、京都フィロムジカ管弦楽団でベートーベン交響曲第7番を指揮し成功を収める。

弦トレーナー

吉野 美穂 京都市立芸大卒。ヴァイオリンを木村直子、岸辺百百雄、室内楽を種田直之、河野文昭、久合田緑の各氏に師事。

管トレーナー

山崎 雅夫 京都大学卒。京都大学交響楽団金管・打楽器トレーナー。トランペットをC. マクベス、A.ハーゼス、M.アンドレの各氏に師事。

ときめく出会いー湖西の自然
マキノ高原

みくに館 (本館)
みくに館山の家 (別館)

春から秋はテニス・各種合宿!
冬は目の前がマキノスキー場!
(京都東 I.C. から車で 75 分)

〒 520-1836

滋賀県高島郡マキノ町牧野

TEL&FAX 0740-27-1106 (本館)

TEL&FAX 0740-27-1228 (別館)

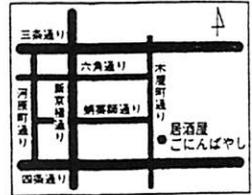
居酒屋
こじんはやし



PM5:00~深夜12:00
(土・祝日前~AM2:00)

4~100名 宴会受付中
中・木屋町四条上ル

☎(075) 221-3517



御装束、絡子の
お仕立に

京都、日吉町 吉野 隆
TEL 0771(73) 0193



ゆったりのんびりくつろげます

湯楽荘

観光に・仕事に・学生さんの合宿にどうぞ
近くに市の体育館・競技場・テニスコートあり
夏は庭で炭火バーベキューを
楽しんでいただけます

料理
和食中心です

亀岡市碑田野町柿花吉岡32 京都交通柿花バス停近く

☎(0771) 22-1030(代)

ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ 修理・調整・製作・輸入・販売

イチイ ヒロキ
violin workshop

ヴァイオリニスト&製作家として、イタリア生活9年の経験が、
あなたの演奏をお手伝いします。弦3割引、魂柱、駒、糸巻きなど
軽微な調整はその場で無料にてしております。お気軽にお越しください。

- ◆ 出町店 〒602-0825、京都市上京区寺町通今出川上ル表町31
- ◆ Tel & Fax: 075-251-0724 携帯電話: 090-3628-0863
- ◆ e-mail: hiroki@violin-workshop.com http://www.violin-workshop.com



Violin Shop

VIOLIN VIOLA CELLO & BOW 販売・製作・修理・調整

渡辺弦楽器工房

京都市中京区高倉夷川上ル福民町726-4 〒604 ☎075-211-0116
西宮市大井出町7-23 〒662 ☎0798-70-2006
FA X0798-70-2009

FREE WAVE CNET
フリーウェイ 日本教育旅行

京都府知事登録第6号

日本教育旅行

京都市下京区鳥丸七条上ル一筋目東入

0120-040566

合宿・ゼミ旅行・スキー・海外旅行 etc
お気軽にご相談ください

印刷のことなら何でもおまかせ

大地社

〒602 京都市上京区河原町通荒神口上ル二筋目東入ル

TEL (075) 231-1727

FAX (075) 256-4604

京都フィロムジカ管弦楽団 おしらせ

第6回定期演奏会

2000年1月9日(日) 長岡京記念文化会館

* 賛助会員大募集！ *

フィロムジカの活動に協賛して下さる方を募集しています。

<特典>

- ・年2回の定期演奏会にご招待。
- ・会報にて演奏会などのご案内をします。
- ・各種依頼演奏にも無料で応じます。

<年会費>

- ・個人会員：4,000円／1人
- ・Jr.会員(高校生)：2,000円／1人

興味がありましたら、

廣岡-☎ 075-682-8175

政岡-Email gh0038@mail2.doshisha.ac.jp

までお気軽にどうぞ。

* 新入団員大募集！ *

<募集パート>

ヴァイオリン, ヴィオラ, チェロ,
コントラバス,
クラリネット, オーボエ, ファゴット,
ホルン, トロンボーン (管楽器オーディションあり)
<スタッフ同時募集>

<活動>

毎週日曜日 午後1時～5時
河原町丸太町周辺(ここに事務局が
あります)
入団費 5,000円 団費 3,000円/月

社会人と学生と一緒に頑張っているオーケストラです。

連絡先 河上 ☎ 075-744-2158

{ Email yukari_kawakami@msn.com

ホームページ <http://www.artdam.uji.kyoto.jp/philo/>